



第五十回関東甲信越静地区ジュニアリーダー研修会  
新潟大会を終えて  
スタッフ代表 阿部達也

第五十回関東甲信越静地区ジュニアリーダー研修会 新潟大会にご参加いただきました、ジュニアリーダーの皆様、ご引率いただきました各県の役員の皆様、三日間大変お疲れ様でした。本大会ですが、参加者の皆様のご協力のもと大きな事故もなく、無事に三日間を終了することができました。

さて、本大会はコロナウイルス感染症が5類となつて、初めての大会となりました。マスクも個人の判断となり、防災食作りやオリジナルTシャツ作り、キャンプファイヤーなどの活動で、一人一人の楽しそうな表情も多く見られました。参加者の皆さんの活気ある盛り上がり、ジュニアリーダーつてこんなに楽しいんだと再度感じる事ができたのではないのでしょうか。

本大会は「3UP (hook up, follow up, make up)」〜妙高の自然の中で、学年を超えて友だちの輪を広げよう〜というスローガンの元に行われてきました。3UPの一つながる・探求する・作りあげるという三つのキーワードはジュニアリーダーの活動を行う中でも大切となります。今回の大会の三日目にまとめ発表があり、参加者のジュニアリーダーたちの発表を聞き、それぞれの思いを感じ取ることができました。新潟大会の中で新しい仲間がで

き、様々な思い出や技術、知識など自県だけでは得られないものがあつたのではないのでしょうか。これらを地元へ帰ってから先輩や後輩などの仲間のジュニアリーダーに伝えてもらいたいのです。そして、今後のジュニアリーダーとしての活動への活力になつてもらえることを願います。また、皆様の中から、自分たちの県の関プロを企画、実行し、次の世代のジュニアリーダーたちの目標になつてくれるようなユースリーダーがたくさん現れてくれることも大いに期待しています。

本大会ですが、我々新潟県スタッフが初めて全員で顔を合わせ、打ち合わせを始めたのが今年の二月、大会まで六ヶ月と時間もない中、スタッフ全員で協力し、話し合いを進めてきました。大会中、

対応不足や情報共有不足などがあり、皆様に迷惑をかけたことも多々あると思いますが、この短期間でここまで作りあげることができたのは仲間のスタッフ一人一人の力があつたからです。この仲間に関東甲信越静地区ジュニアリーダー研修会新潟大会を開催でき本場に良かったです。



暑い夏の熱い関東甲信越静地区ジュニアリーダー研修会新潟大会が終了し、今後の新潟県のジュニアリーダー活動の活力になり、また課題も見つけることができました。今後のリーダー活動に活かしていきたい、新潟県のリーダー活動をより良いものにしていきたいです。十年後、新潟県で関東甲信越静地区ジュニアリーダー研修会が開かれた際、皆様に会えることを楽しみにしております。

最後になりますが、ご引率いただきました各県の役員の皆様、新潟県子連の役員の皆様、三日間研修大会に参加したジュニアリーダー、我々スタッフ一同の活動を見守り、支えていただきまして、本当にありがとうございました。



# 第五十五回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会報告

県子連副会長 出村 豊

令和五年十月二十二日～二十三日  
第五十五回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会が埼玉県川越市で開催されました。参加者は約二百名で新潟県からは十四名でした。

開会式では、主催者を代表して関東甲信越静地区子ども会育成連絡協議会山田弘之副会長、全国子ども会連合会の美田耕一郎会長、来賓の山口衆議院議員、大野埼玉県知事、川越市長など県、市の方々から祝辞の後、表彰式および、感謝状の授与が行われました。

引き続き基調講演があり、全国子ども会連合会の杉浦事務局長と美田会長から「子ども会の歩みとこれからの子どもの会活動」というテーマ



でお話を頂きました。子ども会の歩みについては杉浦事務局長から「子ども会の会員が四十年前には全国で八百万人以上であったが令和四年度は二百四十万人まで減少していること。コロナ禍を挟んで百万人も減少している。四十五年前に（子どもの手による子ども会の実現）を掲げ会員増を図ってきたが、厳しい状況にある。そこで子ども会の活性化に参事となる著名人の話を紹介したい。

①大人になって重要な判断をするためには、子どもの時からの多くの体験が必要。②大人の役割は子どもが一人で越えられない状況に出会ったから手を貸す。手を掛け過ぎないこと。③子どもは褒められて育つというが、信頼を寄せる大人でなければ言つことは聞かない。④子どもの幸せはずっと幸せであること。共感能力、温かい心を育むことが必要等」美田会長からはこれからの子ども会活動について「現在、国会議員連盟の議員と各市町村長を廻り子ども会の必要性を訴えている。今後重要になってくるのは、ユースリーダー

が子どもの指導者なっているかどうかだ。ユースリーダーを大人と活動ができるような地域のリーダーとして育成する必要がある。そのために政治、行政と連携して進めて行きたい。」との話がありました。子ども会活動を進めて行く上で大変参考となる内容でした。

その後は分科会が四つのテーマ「①世代を超えた子ども会活動。②聞こえ子どもたちの声。③未来に向けた子ども会広報。④安全啓発。」ごとに行われをました。今回はやり方を変え、班ごとに結論を出さず対応案をいくつか検討しました。参加者はこの案を参考に現場で実践し、来年の大会に繋げていくことになりました。翌日は、分散会の報告、閉会式が行われ、来年の開催県である山梨県に大会旗が引き継がれました。蔵造り商家の街並みで有名な川越市の伝統文化にも触れることができ大変有意義な時間を過ごすことができました。最後になりましたが、埼玉県子

も会連合会の皆様には、大変お世話になりました。ご苦労された皆様に對し心より敬意を表し、併せてお礼を申し上げます。



## 今後の予定

- 第二回理事会（長岡市中央公民館・さいわいプラザ）  
十二月三日（日）
- 関フロ会長・事務担当者会議（オリンピックセンター）  
一月十九日（金）
- 関フロ安全啓発中級指導者講習会（オリンピックセンター）  
一月二十日（土）～二十一日（日）
- 社会教育懇話会事務局長会議・県事業説明会（県立推進センター）  
二月一日（金）
- 関フロユースリーダー研究協議会（全子連ビル）  
二月二十四日（土）
- 第三回理事会（新潟市東区プラザ）  
三月三日（日）
- 県子連だより第一四三号発行  
三月八日（金）
- 第三回JL中級研修会（長岡市中央公民館・さいわいプラザ）  
三月十日（日）



地域共生社会の実現に向けて  
新潟県教育庁生涯学習推進課  
副参事 笠原 崇史

家庭教育は全ての教育の出発点であり、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する上で重要な役割を果たすものです。しかし、家庭環境の多様化や地域社会の変化の中で、家庭教育力の低下が指摘されています。家庭教育力の向上を図るには、地域や社会全体で家庭教育を支える環境の整備が重要となります。

厚生労働省の調査によると、児童のいる世帯の状況は大きく変化しています。(表1)

昭和六一年に、児童のいる世帯の割合は全世帯の四六・二%だったのに対し、令和

四年は一八・三%でした。

昭和の時代には二軒に一軒は児童がいたのに、今は五軒に一軒しかないという

ことになりました。

また、核家族世帯の割合が増え、三世

代世帯は大きく減少しています。子育て世帯は全世帯

の

表1：児童のいる世帯の全世帯に占める割合

年	児童のいる世帯 (平均児童数)	世帯構造	
		核家族世帯	三世代世帯
昭和61	46.2% (1.83人)	69.6%	27.0%
令和4	18.3% (1.66人)	84.4%	11.1%

(厚生労働省 国民生活基礎調査より)

の中で少数派となっており、兄弟姉妹の数も少なく、子育ての話題を気軽に交わせる環境は希薄化してきていると言えます。

一方で、児童虐待相談対応件数は年々増加しています。県内の児童相談所での相談対応件数は、令和四年度は過去最高の三六一件となりました。種類別では、「心理的虐待」が二二一六件(六〇・五%)と最も多く、次いで、「身体的虐待」八七五件(二二・九%)、「ネグレクト」五三二件(一四・五%)の順となっています。

児童虐待の原因は様々ですが、大半の親はひとりでの苦しみ、悩み続けたその結果が子どもへの虐待となつて現れています。虐待した親は、近所や地域から敬遠されてしまうと、一層社会から孤立してしまいます。

このように、少子化が進み、核家族が多く、人間関係が希薄化した現代では、「地域」が重要な役割を担っています。地域の多様な人材や団体が連携協力し、社会全体で子どもや親を支えていくことが大切です。

子どもの成長を側面から支えている子ども会は、地域での子育て支援の役割を果たす大切な存在です。地域共生社会実現の一翼を担う子ども会の活動が今後ますます推進されることを期待しております。

第一回ジュニアリーダー中級研修を終えて

長岡市 松本 悠里

私は今回の中級研修で、リーダー活動に関わる様々なことを学び、多くの知識と経験を得ることができました。

一日目のジュニアリーダーの役割と心得についての講義では、ジュニアリーダーとしての理想像について意見を交わしました。

二日目には創作活動として楽器作りを体験しました。木の板とワイヤーを使用してギターを作ったり、プラスチックストローでリード楽器を作りました。実際に楽器から音が出て、とても感動したのと同時に、今後の活動でも楽器作りを取り入れてみたいと思いました。

また、子ども会と安全についての演習では、動画を見ながら実際に体験キットを使用して胸骨圧迫やAEDの使い方を学びました。胸骨圧迫は想像していたよりも力が必要であるということを経験を通して知りました。もしもの時に率先して動けるよう、普段よく行くところのAEDの場所をしっかりと確認しておこうと思いました。

今回の研修で修了証を頂くことができ、今後の活動に対してのリーダーとしての意識をより高められたと思います。二日間ありがとうございました。

長岡市 今野愛夢花

私は、今回の中級研修会でさまざまな活動や体験を通して学ぶことができました。今回は雨天で外ではできませんでしたが、室内でチームを組み、協力して活動することができて良かったです。

一つ目はオリエンテーリングです。今回は雨天で外ではできませんでしたが、室内でチームを組み、協力して活動することができて良かったです。

二つ目は創作活動です。私は初めてリード楽器を作りました。最初はうまく作ることができませんでしたがコツをつかみ音を鳴らせるようになったので良かったです。

三つ目は心肺蘇生です。AEDの使い方や、正しい胸骨圧迫の仕方がくわしく分かって良かったです。もし自分の目の前で倒れた人がいたら怖がらずに勇気を出して声をかけてみようと思います。

今回、中級研修の修了証をいただきありがとうございます。二日間ありがとうございました。





## 子ども会と町内の架け橋として

三之町子ども会 嶋津 尚次

私たちの団体は、子どもたちが主体性を持ち、楽しんで活動に参加できるように重きを置いて、企画・運営をしています。春は一年生歓迎会に灯籠作り、お寺での体験活動、夏はラジオ体操や金魚台輪と子ども台輪、これからの秋冬にかけてはハロウィンパーティーやクリスマスパーティーを企画することになっています。

春の灯籠作りは一年生歓迎会も含んでおり、新一年生と一緒に子ども達が描いてきてくれたイラストを灯籠に貼ります。上級生たちに率先して動いてもらい、下級生は貼り方を教えてもらいながら、上手に貼っていました。灯籠は春や夏のお祭りで飾られました。お寺での体験活動では、ザリガニ釣り等の自然体験や、写経や境内での体験を通した寺子屋体験をします。その中で上級生たちは、ザリガニを釣れない子の手伝いをしたり、勉強でわからない子がい

ればアドバイスをしている姿が見られました。写経体験では、全員が背筋を伸ばし集中して取り組み、中には一時間近く写経に取り組み子どももいました。普段はなかなか見られないような真剣な表情や、優しい面をたくさん見られ、昔から参加している子の成長が見られ、大人としてはとても嬉しい気持ちになれるイベントの一つです。

夏の子ども台輪や金魚台輪では、子どもたちの楽しそうな声が響きまします。子ども台輪では、子どもたちが実際に台輪に乗ることができません。中には乗ることが怖くて悩んでいる子もいるのですが、「一緒に乗ろうよ」「階段の上なら安心だよ」と、声をかけてくれる子もいました。

秋のハロウィンでは町内でお菓子を配布して頂ける家を募集し、仮装した子どもたちが順路に沿って町内の方々のお宅を回ります。「トリッククオアトリート！」と元気に声を出

す子、恥ずかしそうに後ろで小さく声を出す子と、色々な子がいます。が、どの子もお菓子をもらうときは、とても嬉しそうなお表情を見せてくれます。

冬のクリスマスパーティーではお菓子を食べたり、ゲームをして楽しみます。去年はプロジェクトゲームを使い、チームに分かれてテレビゲームのマリオパーティをしました。ゲームが苦手な子も得意な子も、皆で楽しむことをルールにしたところ、どの子も「また来年もゲーム大会をしたい」と言ってもらえました。また最後にゲームの順位で山盛りのお菓子をプレゼントし、そこから更に子ども達でお菓子を分けてもらいました。チーム毎に、どう分けるか相談して、最後まで楽しそうに参加してもらえました。

私たちの三之町子ども会は、寺子屋体験や金魚台輪、子ども台輪は子ども会以外の子どもたちも参加を募っています。少子化により、どうしても年々参加人数が減少しています。そのため今後は子ども会員にこだわらず、町内の枠を超えて運営することも、時には必要になってくるのかもしれないと考えています。今後町内外関係なしに楽しめる企画を、子どもたちと共に考えていきたいと思っています。そして子どもたちが学年関係なしに笑顔で楽しんでくれたら嬉しいです。

何より私たちの子ども会は町内の方々のご協力あっての子ども会でもあります。今後も町内の方のご協力に感謝すると共に、私たちが子どもと町内の架け橋として、今後も見守ってあげればと考えています。



上越地区

久しぶりの子ども会活動

三和区島倉子ども会

六年 田ヶ久保誠太

夏休みに子ども会でレクリエーションを行いました。コロナウイルス感染症予防のため三年間行えていなかったため、とても楽しみにしていました。

まずみんなでボウリングへ行き、六年生三人で勝負をしました。僕は久しぶりのボウリングだったので、一投目は思った通りにボールが転がらず、一ピンしか倒れませんでした。しかし、段々となれてくるとストライクを出せるようになりました。三人共、一ゲーム目より二ゲーム目の方がいいスコアを出す事ができ、ストライクを出した時にはハイタッチをしたりしてとても盛り上がりました。

夕方からは、島倉会館でバーベキューをしました。焼きそばやお肉がおいしく、お腹いっぱいになるまで食べました。また、色々なジュースを混ぜて、どの組み合わせがおいしいか試したりもしました。普段はできない事なので、おもしろかったです。途中でスイカ割りもしました。タオルで目隠しをして、木の棒を持ち、順番に



挑戦しました。みんなの声を頼りに歩くのは少し怖かったけれど、スイカに当たった時はとても嬉しかったです。しかしスイカは固く、木の棒では割ることができなかったため、手で割りました。中身が詰まっついていて、とてもおいしかったです。大きなスイカでしたが、みんなで食べるとあつという間になくなってしまいました。スイカ割りの後はヨーヨー釣りをしました。一人二個釣ることができ、僕は水色と緑色を選びました。暗くなるとみんなで手持ち花火をしました。途中で色が変わったたり、三分以上も燃える花火もありとてもきれいでした。友達と線香花火で勝負もしました。小学校最後の夏休みに良い思い出を作ることができました。疲れたけどとても楽しい一日でした。

中越地区

「全力演舞」

三条市一躍子ども会

中学三年 坂井理紗子

私たち一躍(ひとおどり)は、五泉市、三条市で活動している子ども中心のダンスチームです。「全力演舞」をモットーに、躍ることが大好きなメンバーが集まって、よさこいやヒップホップ等の練習に励んでいます。

コロナ禍以前は、地域のお祭りや、幼稚園、老人ホームでの慰問演舞など、沢山の方々の前で演舞を見ていただく機会がありました。しかし、ここ数年は思うように練習もできず、イベントも全て中止となり、やりどころのない悔しさが込み上げてくることもありました。

コロナ禍を乗り越えた現在、私たちのチームは、先生、そしてメンバー同士の心の絆が強くなったと感じています。みんなが集まって練習し、イベントに参加できる嬉しさで一杯です。県外のイベントにも積極的に参加し、「東京よさこい」では豊島区教育長賞受賞、長野県で開催された「善光寺よさこい」では、金賞を受賞し、奉納演舞を行ってきました。また、プロ野球本拠地であ



る埼玉県のベルーナドームで演舞を披露することもできました。新潟県内では、地域のお祭りやイベントへの参加はもちろん、新潟市体育館で行われた「仙台ガールズプロレス新潟大会」のリング上で演舞を披露させていただき、大勢のお客様から大きな拍手、温かい声援をいただき、とても感謝しました。学生中心の子どもチームのため、勉強や部活で思うように練習に参加できないこともあります。そんな時はお互いに助け合いながら練習を行っています。大きい子ども達が小さい子ども達の振り方を教えたり、躍る上で大切な姿勢を伝えたり、メンバーも自分自身も成長できるよう頑張っています。子どもたちの持っているパワーを、見てくださる皆さんに届けられるよう、これからもチーム一丸となって「全力演舞」で躍っていきたいです。

下越地区

町内会納涼夏まつりと灯ろう作り

新発田市舟入町一・三丁目  
子ども会  
六年 長谷川 皐

楽しかった事は屋台で遊んだ事です。友達と色んな所にまわったり、景品をもらったりして楽しかったです。射的で三個当てたり、的当てで高得点で景品をもらったりしてうれしかったです。その次にうれしかった事は、納涼夏まつりの準備です。ひもつりのお菓子を色んなひもにつけたり、カップめんにもスキングテープをつけたりしてとても楽しかったです。お祭りの手伝いができてとてもうれしかったです。

二つ目の灯ろう作りで楽しかった事は絵を描く事です。一枚目では自分の好きなキャラクターとア二メの絵を描きました。二枚目では、一枚目と同じ好きなキャラクターを描きました。去年とくらべたら、少し絵が上手になっていたので良かったです。二枚目を作ったあと、妹の灯ろうを手伝いました。

灯ろう作りは初めてではなかったのですが二枚も描けたのでうれしかったです。次、妹が一年生に

なったら灯ろうの絵を描くと思うので、いっしょにけんめいお手伝いしたいです。

灯ろうを見に行ったら時、電気がついていてとてもきれいでした。友達の絵とはなれていただけ、妹ととなりだったのでうれしかったです。朝もすてきだったけど、夜は電気がついていてとてもすてきでした。



佐渡地区

海の日の海岸清掃

相川 高瀬子供会

中学一年 宇田 海璃

ぼくたちの子ども会では、海の日に海岸清掃を行いました。例年よりもとても暑く、三十度を超える猛暑の中で行いました。毎年の恒例行事でしたが、あまりの猛暑で清掃時間を短くする事を余儀なくされました。

それでもみんなの頑張りのおかげで例年と同じ量のゴミを収集することができました。

落ちていたゴミの中にはビンや缶よく分からない発泡スチロールや壊れたコーン等もありました。人数も時間も少ないのに、こんなにゴミを収集できたのはすごいなと思いました。やはりゴミの種類は例年と同じで燃えるゴミが絶えません。



いつかこの高瀬の海岸からゴミが無くなり、ぼくたちやボランティアの大人の方々が何もなくてもゴミが無い状態で保たれた昔のきれいな海岸に戻りたいです。

海岸清掃が終わったあとは、一人一人に飲み物が配布されました。良い事をしたあとに飲むキンキンに冷えたジュースはとても美味しかったです。



編集後記

○八月には猛暑の中、関フロJL研修会新潟大会が国立妙高青少年自然の家を会場に開催されました。ユースやジュニアリーダーの皆さんの活躍に胸が熱くなりました。一人一人が大きく成長できた大会になったのではないかと思います。

○最後に、本日より原稿をお送りいただきました皆様へ心より御礼申し上げます。  
(文責：板垣)

【編集発行】

一般社団法人  
新潟県子ども会育成連合会  
〒九五一-八三三  
新潟市中央区白山浦一-三〇〇  
電話 〇二五-三三〇-五九九八  
FAX 〇二五-三三〇-五九九二